

オリゼメート®リディア®箱粒剤

- 特長：
- 水稲の重要病害虫である、いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガに優れた効果を発揮します。新規殺虫成分フルピリミンは既存殺虫剤への感受性が低下した害虫に対しても殺虫活性を示します。
 - ミツバチを始め、ウズキコモリグモ、ヤゴなどの有用昆虫に影響はほとんどありません。

オリゼメート、リディアは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フルピリミン・・・2.0% プロベナゾール(化管法第1種)・・・3.2%	包装	1kg×12
性状	類白色～淡褐色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲(育苗箱)	いもち病 イネミズゾウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタオビコヤガ イゴ類	育苗箱 (30×60×3cm 使用土壌約5L) 1箱当り50g 高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50～100g)	移植 3日前～ 移植当日 移植 3日前～ 移植当日	1回 1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。 育苗箱の苗の上から均一に散布する。	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせて秤量し、使いきること。
- (2) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植すること。
- (3) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
- (4) 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当りに乾粒として200～300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50～100gまでの範囲で調整すること。
- (5) 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- (6) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
- (7) 処理苗を移植する本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意すること。
- (8) 処理苗を本田に移植した後は、そのまま湛水状態(湛水深3～5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- (9) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田での使用はさけること。

- (10) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予想される場合には使用をさけること。
- (11) 本剤は処理を誤ると、生育初期の葉の黄化や生育遅延などの薬害を生じるので、所定の使用時期、使用方法を守ること。
- (12) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (5) 夏期高温時の使用をさけること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。